



令和5年度 第16号  
令和5年8月16日  
熊本市立本荘小学校  
校長 西川 英臣

## 1学期の出来事より⑥ 読書月間にて～もう一度、読書のよさを伝えたい～



この写真は、6月の読書月間の時から校長室の前に展示してある本です。もちろん、本校の図書室から借りてきた本ばかりです。「絵本 ハーメルンのふえふき」、「トム・ソーヤーの冒険」、「精霊の守り人」、「ふるさと子供グラフィティ」、「詩集 のはらうた」、「冒険者たち ガンバと15匹の仲間」・・・、どれも私が子どもの頃、胸を躍らせて読みふけた本や大人になってからその魅力を再発見した本ばかりです。本当は、「あらいぐまラスカル」、「子鹿物語」、「シャーロックホームズの冒険」、「少年探偵団シリーズ」といった子どもの頃に夢中になった本も全巻紹介したいところでした。

何かといいますと、読書月間にあわせて、「校長先生のおすすめの本」という立ち読みコーナーを校長室の前に設置したわけです。その昔、少年だった私を魅了した本を手にとってもらいたかったのです。どうなったかは、最後に（笑）

ある統計では、小学生が本を読む時間に比べてゲームなどの時間が圧倒的に多いということが明らかになっています。今の世の中、あたり前のように感じるのですが、そこも課題かもしれませんね。図書室の先生に、「うちの子どもたちの人気の本って何ですか？」と聞くと「図鑑とかはよく読むのですが、物語はあんまり・・・。」と返ってきます。この事実がとても残念だと思うのです。

私は、物語を読む中で外国のおいしいそうな食べ物や外国のお話に出てくる街並みや自然の描写に憧れを感じていました。読書をする中で、外国の文化を学んでいたのです。

また、颯爽と事件を解決する名探偵の姿や苦難に負けず強敵に向かっていく主人公から勇気を学んでいました。人の生き方に出会うことによって心が強くなっていったように思います。

（裏面に続きます）

しかし、今の子どもたちは、そういった、自分自身の想像力をかき立ててくれる物語よりも、ネット上で配信される動画の方に興味があるらしいのです。本当にこのままでよいのだろうか考える日々です。ですので、「夏休み中に20冊は読むよ」と子どもたちにも約束したのです。

7月には、本荘小学校の学校保健委員会で、子どもたちが「自分たちのスクリーンタイムを見直そう」というテーマを全校で話し合いました。スクリーンタイムとは、スマホやゲーム、テレビの画面を合わせて、画面（スクリーン）を見ている時間のことですね。

「どうすればスクリーンタイムを減らせるのか」ということについて子どもたちが6年生を中心に縦割り班で話し合いました。そして、考えたことを参観した多くのお家の人や学校評議員さんなどの大人の前で意見表明を行ったのです。スクリーンタイムに関しては、頭ごなしに「ダメだ、ダメだ」と禁止するのではなく、子どもたちが自分たちで考えて、本気で行動することに意味があると思っています。

だからこそ、校長室前の立ち読みコーナーなのだ！と考えたのです。もう一度、読書のよさや楽しさを伝えたい。校長室や職員室で、日々想っているだけではダメなのです。やはり、行動あるのみ。行動した後には必ず結果がついてくるものでしょう。

ある日、校長室で仕事をしていると、こんな声が聞こえてきました。

「校長先生のおすすめの本っておもしろいのかなあ？」

「どうだろう、どんな本なのかなあ、へえー」

扉の向こうで、子どもたちの声が聞こえてきたのです。やはり、行動することが大事ですね。このことも子どもの頃に読書から学んだ校長先生でした。（校長）

## 校長先生の虫眼鏡 「すこやか集会で自らの意思表明を」

本文でご紹介した「すこやか集会」の様子です。「スクリーンタイムをどうするか」というテーマだけでなく、「子どもたちの意思表明」、「自治活動」、「大人からの助言」といったいくつかのサブテーマも主眼とした集会です。学校評議員さん方も参加してください、大変好評でした。皆様、ご協力ありがとうございました。

【開会の様子】

【参観してくださった皆様】

【アンケートの集計結果】



【グループでの話し合いの様子】

【まとめたことの発表】

【保護者の方からのご助言】